

岡山県立新見北高等学校

古川 満

斉木 学

池田 勉

はじめに

我が国の食料自給率は、ここ 8 年間 40%で推移している。また岡山県北部では、担い手不足から耕作放棄地が年々増加しており、新見市内でも約 400ha の農地が耕作されないまま放棄されている。この耕作放棄地の有効活用として、大豆栽培が考えられる。それは比較的成本がかからず、技術的にも容易に栽培できるからである。

そこで、大豆の中でも比較的食用頻度の高い豆腐に注目し、豆腐加工に適する大豆を 3 品種選定した。本年度はこの 3 品種のうち、どの品種がこの新見の地に適しているのかを明らかにした。また次年度は、3 品種を豆腐に加工して食味調査を実施し、この 2 つの結果をもとに、県北での豆腐加工用大豆の適性品種を明らかにしたい(図 1)。

豆腐加工用大豆  
ギンレイ サチユタカ エンレイ

栽培実証試験

食味試験

県北での栽培特性  
検証する

消費者嗜好に合う  
豆腐を検証する

生育収量調査

食味アンケート調査

豆腐加工用の有望品種を明らかにする

図 1 研究のフローチャート

## 2 実施の経過

- (1) 場所：新見北高等学校内のほ場
- (2) 品種：ギンレイ・エンレイ・サチユタカ
- (3) 播種：2005年 5 月 24日
- (4) 定植：2005年 6 月 21日
- (5) 施肥：あしん有機( 6-6-6)総量 40kg/10a,  
P K 化成 10kg/10a
- (6) 防除：ベンレート T 水和剤，トレボン乳剤  
3 回散布
- (7) 収穫：10月 4 日(エンレイ)，10月 11日  
(サチユタカ)，10月 17日(ギンレイ)

7 月 11 日から 1 週間おきに主茎長および節数を調査した。

## 3 実施結果

調査最終日( 9 月 12 日 )の主茎長はギンレイが 67.1cm と最も長く，調査開始日( 7 月 11 日 )との差も 46.7cm と最も大きかった。3 品種の中では，生育が一番旺盛であった。一方，エンレイは 9 月 12 日の主茎長が 48.5cm と最も短かった(図 2)。

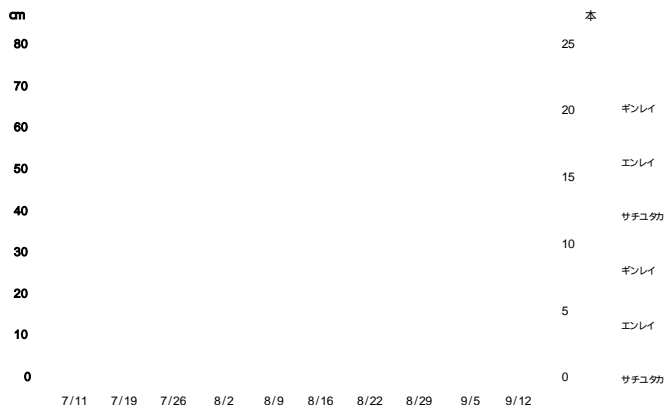
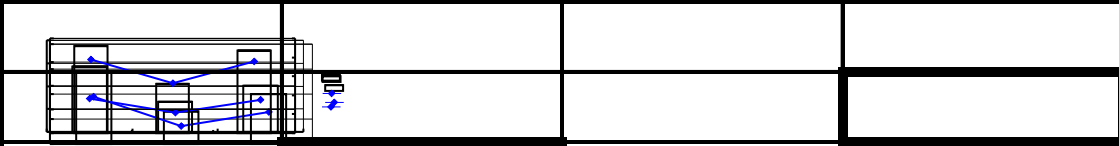


図 2 主茎長と節数の推移



1株当りの総粒数は、ギンレイが286粒と最も多く、次にサチユタカが200粒であった(図3)。エンレイは131粒と最も少なかった。しかし、1サヤに入っている粒数はエンレイ1.8粒、サチユタカ1.6粒、ギンレイ1.5粒とエンレイが一番多かった。

#### 4 考察

ギンレイとサチユタカは、普及センターが栽培中に掲載している目標収量の300kgを超えていた。この2品種については、新見市内での栽培が十分可能である。収量は、ギンレイが400kgと一番多かったが、今後は1サヤ粒数と精粒率の向上が課題である(表1)。しかし、エンレイの1サヤ粒数は3品種のうち最も良かったが、収量は152kgと最も低く、目標収量の半分であった。ただし、エンレイは主茎長が3品種のうち最も短いため密植が可能である。そのため密植した場合の収量は、もう少し期待できる。



図3 1株当り総粒数とサヤ数

1株当りの精粒数は、ギンレイが147粒、サチユタカが140粒、エンレイが84粒でギンレイが最も多かった(図4)。しかし精粒率(精粒数/総粒数)は、サチユタカが70%、エンレイ64%、ギンレイ51%とサチユタカが一番高かった。

表1 調査結果一覧表

項目	1サヤ粒数	精粒率	収量 <sup>a</sup>
ギンレイ	1.5粒	51%	400kg
エンレイ	1.8粒	64%	152kg
サチユタカ	1.6粒	70%	371kg

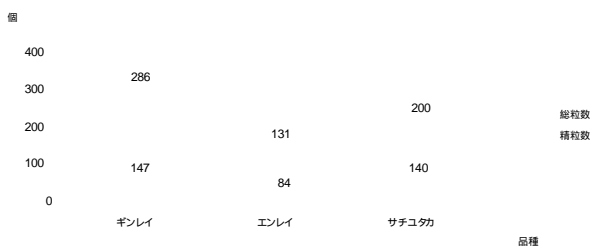


図4 1株当り総粒数と精粒数

100粒重は、ギンレイが39g、サチユタカが38g、エンレイが26gであった(図5)。10a当り6,972株(条間70cm×株間20cm)植えた場合の収量は、ギンレイが400kg、サチユタカ371kg、エンレイ152kgであった。

#### 5 まとめ

ギンレイとサチユタカは、新見市内でも目標収量を十分確保できそうである。しかし本研究の最終目標は、消費者が求める美味しい豆腐の原料大豆を生産することである。よって消費者がどのような味の豆腐を嗜好しているのかが重要なポイントである。

そこで今後は、3品種のどの大豆で作られた豆腐が消費者の嗜好に合っているのかを食味調査する予定である。

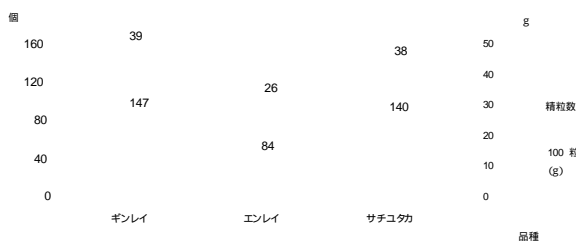


図5 1株当り総粒数と100粒重